

## 23 家事労働について (第2報)

埼玉大教育 稲葉 ナミ

1 生活時間調査の結果、望ましい生活時間構造に導くためには、家事労働時間を短縮する必要を認め、そのためには、家事労働を如何に管理していったらよいかという方向を見出すためにこの調査を行った。

2 既に報告した主婦の生活時間の中から家事労働時間をとりあげ、これを中心に、文献と比較しながら、家事労働の内容の分析を行った。

第2報は、子供の有無・家族形態・子供の数・家族の人数・主婦の年齢等により、家事労働時間および内容が如何に変るかを、文献や職業をもつ妻の場合と比較検討した。

3 育児時間は他の家事労働に優先し、子供一人の方が、二人の場合より多くの育児時間を費しているばかりでなく、家事労働の総時間においても常に一人の子の場合より多い。

子供のない妻が家族と同居している場合は、休日は幼い子供のある主婦より、家事労働時間が長い。

あらゆる場合に、家事労働時間が短縮すると、第1に切すてられるのは裁縫時間であり、最後にのこるものは育児・炊事である。